文芸欄

俳句

紅梅会（東灘区）
日に透けて虹をおりなす石鹸玉　美恵子
白蓮の愁いのこりて清らかに　朋子
吹く風に乱れ舞い散る桜かな　里子
六甲の緑の山もピンク色　扶喜子
夜櫻に星の見えずにあすの道　松子
目高飼う病院待合ＣＴ検査　早智子
夜櫻ちり垣根越え道までに　比佐美
しゃぼん玉吹きつつ風を連れ歩く　恵

宝愛句らぶ（中央区）
夏座敷家具も入替え京町屋　和子
露地苺たっぷり食べた吾子の口　悦子
ジャム作り鍋の苺と格闘す　千枝子
旅の朝万緑仰ぐ新神戸　道子
神戸練る弘前ねぷた緑の夜　丘
風と虫ともに入らん竹簾　和志
簾越し娑婆を見守るあの世から　哲男
露時雨傘開く人畳む人　啓臣

梅の美会（兵庫区）
夏の空地震雷コロナ禍（まが）　山口　茂子
孟宗竹凜凜伸びて食卓に　藤田ユイ子
かさばる葉十薬の花押し上げる　岡田富早恵
紫陽花や道行く人に笑顔する　林　静野
蟻の列乱して通るシルバーカー　山田　朝子
食パンの焼ける合図や朝ぐもり　栗野　富江
炎天にさらさる手摺持ち難く　藤井　歌子

青葉クラブ（北区）
振り向けば他人のそら似サングラス　馬場みつえ
慌たゞし早明け梅雨や暦見る　山本　恒雄

高原ささゆり会（北区）
咲き揃う櫻に白き雲流る　松村二三枝
参道のいにしえの味木の芽かな　山下　久一
次雨までの香り短かき針槐（はりえんじゅ）　若林　節子
河津桜川に添い寝の竜の如　南　久美子
背伸びして腰を労る夏野かな　てる子

ひまわり句会（北区）
筋力に負けじとはげむ草むしり　辻　寿賀子
葉隠れに大粒苺に喜ぶ児　石井　敏子

ひよどり台句会（北区）
ネモフィラの輝く青さ夏来る　塩見　光子
紀州路を分ちて光る夏の川　田中　弘子
夏立つや回転ドアーの向こうから　筒井　豊子
新緑の館（やかた）より溢る輪唱歌　中井　光子
人棲まぬ広き庭々新樹かな　矢谷登美子

北斗句会（北区）
姉からの絵手紙すらり花菖蒲　藤井久美子
出水川岸辺に古き水難碑　岸下　庄二
境内の湧水絶えず白菖蒲　脇坂有多子
早苗（さなぶり）饗や装束脱いで禰宜（ねぎ）上座（かみざ）　松本　洋子
右腕は点滴疲れ梅雨に入る　金行　隆
両岸の闇深々と出水あと　久松　礼子
藻の花や底まで映ゆる空の蒼　増田　嗣夫
「おいでやす」「おこしやす」よと鱧の店　北条　幸夫
寺町の甍にそびえ朴散華（ほうさんか）　秋山　弘之
一列に我迎え立つ花菖蒲　川原　正
老いてなほ祭り太鼓に浮かれをり　黒田　久江

見山台新樹会（北区）
若葉萌ゆ初給金を知らす孫　石本　宏一
駒の首しなやかに伸び牧開く　貞永　弘子
柔らかく花芽に注ぐ今朝の雨　松隈　弘子
じゃがいもに降る雨音で梅雨に入る　高石　勝行
花仕舞虫糸ひきてぶうらぶら　藤田　和夫
我が足で歩くしあわせ若葉風　丸尾　嘉子

福寿草句会（須磨区）
潮風を全身に受け夏に入る　上原　綾子
窓といふ窓開け放ち夏に入る　林　慎一
下校バス若き匂ひの夏来る　岩田美代子
ウインドーにエアコン展べる立夏かな　松下修二郎

多聞台ときわ会文芸部（垂水区）
冷し酒夫（おと）と二人縁台に　中村佳代子
冷し酒あては活きよし鯵（あじ）一匹　大畑留理子
二軒目もひや酒続く愚痴つづく　樋山　隆夫
冷や酒はちょっと癖のある方が好き　久下　順司
波音や独りキャンプ冷し酒　山本雄二郎
村祭り冷酒浴びる男女衆（おめしゅう）　木村　敏博

桃山台クラブ文芸部（垂水区）
桜餅心一杯味も香も　田畑美恵子
寒の戻りくしゃみ血圧高止まり　大上　昭敏

きらく句会（西区）
三枚の棚田植え終えバナナ食う　田野　育利
ちぎり絵にくらげ泳がせ出雲和紙　森本　珠実
ナイターで捨て身になりし勇姿かな　山本スミ子
小雨きて水面ゆれるやめだか群　大橋　治子
何処へ行く水草の上蟻一匹　喜田　弘征
菖蒲園たどり着けば休園日　阪本　道子

月が丘むつみ会（西区）
窓ごしに高き街路樹ゆれ美々し　藤森　勝子
夏の夜に妖しく光るアンタレス　川上　富範

◆**個人**
夜明け待ち開け放つ窓蝉時雨　（灘）福井　悦子
蚊帳を吊る釘そのままやわが生家（灘）山上　幸子
恙身になだれて来たる暑さかな　（北）竹村　良子
涼添へし絵手紙届く友若し　（北）山田キミ子
夏の夜に高き街路樹ゆれ美々し　（須）福本　和恵
◆**個人**
夜明け待ち開け放つ窓蝉時雨　（垂）藤田　恵子
蚊帳を吊る釘そのままやわが生家　（垂）山田とし子
恙身になだれて来たる暑さかな　（西）芝田　律子
涼添へし絵手紙届く友若し　（西）寺岡　洋子
目借時ピンクに透ける猫の耳　荒木　宗Q
マスクして「あんた誰」とコロナ夏　京念久美子
小粒でもルービーの煌めき桜桃（ゆすらうめ）　笹岡　淑子
となり町黄金の波麦畑　杉尾　悦子
もっこりや命の炎山若葉　大和ケント

川柳

桂木ひふみ会（北区）
チコちゃんの激怒姿は不動尊　三　茶
ティータイム喜怒哀楽を引きつれて　かほう
代償はスイッチ消されて省エネに　ヨシ
地球が怒る地震台風大津波
信号無視ひき逃げあおり重い罰

筑栄会（北区）
少年野球あじさい球場が甲子園
笑いあう女子高生か紫陽花は
忘れものとりに行ったら人のもの
病院のどの科に行っても顔なじみ　あきら
作った句どこにいったか雲がくれ　ときこ
海を越え嫁ぎし株子七段花（シチダンか）　とし子
暗い時藤井竜王に光りみる　まり子
嫁の趣味誘われ始め弟子になり　まさこ

◆**個人**
タイガース勝てば不思議と元気出る　（東）辻本美佳子
忘れすぎ俺につけてよＡＩを　（東）増田　芳之
ウクライナＢＳ「寅さん」に癒された　（北）植田きみ子
レス蹌踉（よろけ）爪先働く散歩みち　（北）かんいち
熱帯夜うまい水が命の綱　（北）北野　利一
山笑う今年は違う怒ってる　（垂）小高　肇
雨の京風情があるねしつとりと　（西）大島喜久子
名月に合わせ散髪満月に　（西）萩原　浩一
紫陽花もビニール傘で雨やどり　（西）藤長　文子

へなぶり

年重ねキャベツ残骸無惨にも
虫と戦う八十路の息子　（北）清水　久子

短歌

花山短歌会（北区）
記憶力の衰えゆくを感じつつ八十二歳の日々バタバタと　山田加壽代
桜木はいかなる虫を育てるか小鳥来て鳴く「斜行塔」横　船崎めり子
最後の日中学校からのブラスバンドの神戸開演孫の吹き納め　礒元カヨ子
離れ住む友の病の気になりて訪ねて見れば家は空き家に　木下いく子
故郷を写真の額に眺むれば有明の海光るが見ゆる　清水　恵子
私の前歯一本グラグラし受診をすれば五本差し歯に　西谷　敏子
ねむの木の薄きもも色つつましく夫の米寿に子等の集まる　古林　保子

◆**個人**
暑き日や半袖姿見て思い我（わが）まだ厚着寒くないかな　（東）武田　勝子
八乙女の祈りの田舞に応えあれたわわに実る黄金の秋を　（灘）上田　節子
記念日よまやカンフォーレ30年みんなで歌い先生感謝　（灘）酒井　郁美
親田畑弟背なに水運び食事風呂たき昭和のケアラー　（中）水口　敏子
母の日と娘夫婦に誘われて景色とご馳走ホテル三十階　（兵）大賀　清子
空高くつばめの声が聞こゆるも姿を見せず我を見るなり　（北）箱守喜久子
いとしき娘戻らぬ笑顔五十回忌重ねし歳に切なく恋し　（長）桑田千枝子
友人も知人も逝きて八十路来て日々の健康ありがたく想う　（長）浜田芙美代
君に手を取られて飛んだ水溜まり遠き昔の記憶の断片　（須）江口　啓子
生かされて生きてる命の尊さを老友（とも）と別れてしみじみ想う　（西）秋山シズヱ
単調な雨の調べに潤うかあじさいの色したたるごとし　（西）松浦　妙子
万緑やグラウンドゴルフ遠征し水平線も眺めつゝ　（西）濵頭ミノル
為せば成る漢字検定準二級こんな俺でも合格出来た　（西）水澤　清

あとがき

今回も多くの原稿をありがとうございました。皆さん元気に活動されているのが紙面を通して伝わってまいります。

立秋が過ぎ、お盆も終わりましたが、まだまだ厳しい残暑が続いております。昔の暑さと比べると、気温が上がり始めたのが高度成長期で、特に現在60代以上の人の子どものころと現在では大きな差が生じています。今と昔では夏の暑さが違うことを認識し、しっかりと暑さ対策をして活動と生活を送りましょう。

とっておきの作品

絵はがき

【兵庫区】
御崎南ビル
ほのぼの倶楽部
衣川　晴子

「とっておきの作品」募集

会員の皆様から、絵はがき＆色紙絵を募集しています。必要事項を記入したものを同封の上、作品をお寄せ下さい。

必要事項　①氏名（ふりがな）　②クラブ名　③題名　④郵便番号　⑤住所　⑥電話番号

※葉書サイズ（100mm × 148mm 以内）・色紙サイズ（242mm × 272mm 以内）でお願いします。それ以外は受付出来ません。
※作品は随時ご返却いたしますが、長期間お預かりする場合がありますのでご了承ください。
※作品は丁重に取り扱いますが、損傷については理由のいかんにかかわらず、一切の責任は負いません。

宛先 〒650-0016 神戸市中央区橘通 3-4-1
KOBEシニアクラブ　「とっておきの作品」係